

# 新生児グループ

## 臨床

総合周産期母子医療センターとして長岡赤十字病院、新潟市民病院、新潟大学医歯学総合病院が、地域周産期母子医療センターとして県立新発田病院、県立中央病院、魚沼基幹病院、長岡中央総合病院が県内周産期医療の中心的な役割を担っています。さらに、山形県鶴岡市の荘内病院を加えて、新潟大学新生児グループとして活動しています。

各センターはそれぞれの地域で、産科・小児科が連携して新生児医療を支えています。これらのセンターには新生児指導医が揃っており、新生児科医としての専門的な知識と技術を身につけることが可能です。早産・低出生体重児、先天性疾患合併児、出生後の適応障害児を対象に診療していますが、呼吸・循環・神経・栄養・感染・内分泌…など、様々な領域の知識が求められます。研修をすることで、一般的な新生児管理、新生児蘇生法、気管挿管や人工呼吸管理、術前術後管理、低体温療法などの集中治療のスキルをマスターできます。

NICU 卒業生の発育発達のフォローアップや医療的ケアを要する児の外来診療も重要な業務です。各センターでは、理学療法士と連携したりハビリ、臨床心理士と連携した発達検査、訪問看護ステーションと連携した在宅医療などを行っています。お子さんの成長発達を見届けることで得られる学びも多く、各グループの先生方と連携を取りながらフォローアップを行っています。

小児科専門医を取得後、総合周産期と地域周産期で3年間研修し、日本周産期・新生児医学会の周産期専門医（新生児）を取得できます。

新生児科医は集中治療に関わるため、忙しくて拘束時間も長いと思われがちですが、チーム医療を重視した“働き方改革”を進め、オンオフを大切にしています。当直業務のない日中の時短勤務でも十分に活躍の機会がありますので、子育て中などで時短勤務をご希望の先生も是非ご検討ください。

## 研究

県内外の周産期センターと連携して共同研究を行っています。年数回リサーチミーティングを開催し、研究の立案から日頃の診療の疑問点までざっくばらんに話し合っています。その後はさらに飲み会で議論を深めています。希望者は大学院へ進学し、臨床もしながら学位取得も可能です（大学院生：庄司圭介、星名潤、榆井淳）。

### 【研究テーマ】

小林 玲：慢性炎症のコントロール（子宮内炎症、腸内細菌叢、慢性肺疾患）

金子孝之：DOHaD（極低出生体重児の尿中ステロイド分析、腎機能評価と予後）

齋藤朋子：Family Centered Care

庄司圭介：早産児の胎盤細菌叢と腸内細菌叢の関連

星名 潤：早産児の気道疾患の疫学調査

榆井 淳：子宮内炎症とサイトカインの関連

## 教育・留学

新潟大学医歯学総合病院は、日本周産期・新生児医学会の新生児蘇生法普及事業（NCPR）新潟サイトに認定されています。新生児グループの医師は NCPR インストラクター を取得して、県内外で講習会を開催し NCPR 普及に努めています。

臨床のスキルアップだけでなく、更なるサブスペシャリティ獲得や臨床研究・基礎研究を目的として様々な施設に留学しています。

### 【最近の国内留学実績】

昭和大学

桑原春洋（栄養）

福島県立医科大学

鈴木亮（臨床研究法）

京都大学

下妻大毅（内分泌）

成育医療センター

倉辻言（臨床研究法、医療的ケア児）

少しでも新生児グループに興味のある先生は、各病院の新生児グループの先生方に色々と聞いてみてください！